

# 学級崩壊はどうして起こるか

## 1. 学級崩壊は、どうしておこるか？

学力の低い子どもが、問題行動を起こす。⇒これだけでは、学級崩壊は、起らない。



学力の高い子どもが、同調したり、あおったり、参加したりする。



学級崩壊

## 2. どうして、学力の高い子どもが、同調したり、あおったり、参加したりするのか？

○授業が面白くない。わかりきった内容の授業である。

○塾などですでに学習済みの内容の授業である。

○授業を通して子どもは、担任が、馬鹿に見えている。塾の先生の方が、立派である。

○塾の先生の方が、わかる授業をしてくれるし、新しい知識も獲得できる。

+

○担任の指導に一貫性がない。説得力に欠ける。

○担任の指導が、的外れである。

○担任を冷めた目で見ると。←「ほめて育てる」「ほめ言葉のシャワー」の誤解による指導



担任を舐めてしまう。

学校では、適当に力を抜いて遊んでいればいい。

先生をだますぐらいは、簡単である。

## 3. 学級崩壊が起らないようにするためには、

### ①学級経営の問題

・指導の的確さと一貫性。

・しっかり叱って、しっかりほめる。←「ほめて育てる」

子どもの人格否定をしないように気を付ける。

・差別を許さない学級づくり

・一人ひとりの存在感のある学級づくり（学級の中に居場所がある。）

### ②学力の低い子どもの問題

・繰り返し学習⇒学力の向上

・学力が低くても困らない人間関係（友達関係）づくり

### ③授業づくりの問題

・学力の高い子どもも低い子どもも1時間の授業の中で新しいものを獲得するような「楽しい授業」の構築

授業で子どもは、先生を尊敬する。

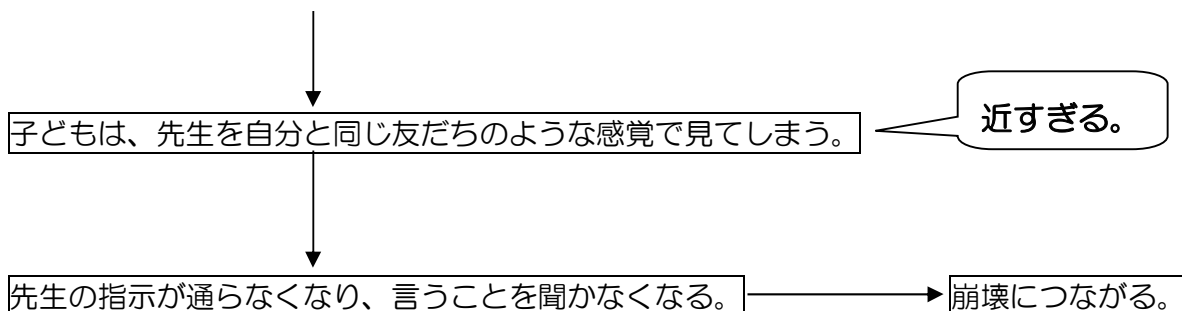
## 先生と子どもの距離について

先生と子どもの距離は、近い方がいいと考えがちであるが、どうもそうではないようである。近すぎると、子どもは、先生の言うことを聞かなくなったりするし、遠すぎると、子どもの状況がわからず、「いじめ」が起こったりする。適切な距離を保つことが大切である。

怖い先生、怒る先生は、あまりそんなことを考える必要はない。そういう先生に対しては、子どもたちは、いうことを聞かし、先生の指示も徹底する。上から威圧的におさえれば、学級崩壊の可能性は少ない。頭ごなしに悪いことは悪いと怒り、そのあと、普段は、いつもあなたのことは見ているんだよという姿勢を示せば、言うことを聞く。一緒に遊んだりして少しのやさしさを示し、子どもとの人間関係をつくっておけば問題はない。子どもたちは、「怖いけど、優しい先生」という表現をする。しかし、怖くない、怒らない先生が、次に担任すると、言うことを聞かなくなったり、学級崩壊につながったりする。それでは、学年が上がる毎に怖さを増していかなければならなくなる。それは、よくない。そこで、ひとつの提案！「子どもとの距離」を考えてみてはどうだろうか。

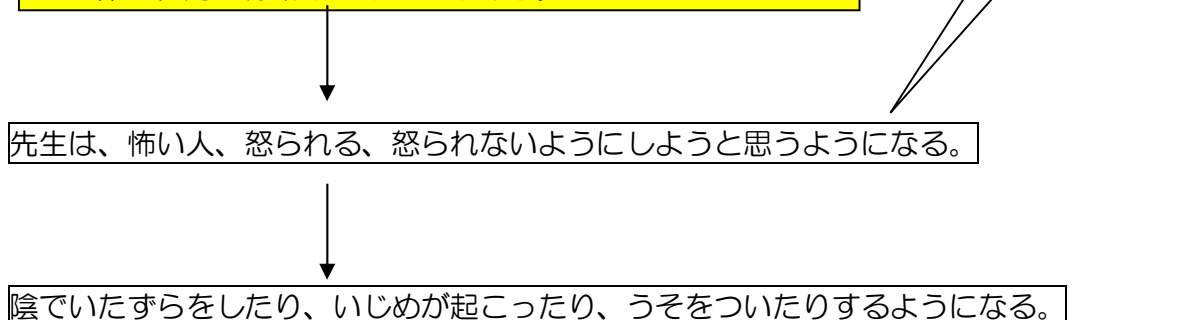
### ○低学年の場合 (ケースその1)

- 子どもの使う言葉を使って話をする。「いらん」「まじ」「あほか」「うるせえ」
- 授業中の指名に名前やあだ名で呼ぶ。「かおりちゃん」「ブースケ」
- 子どもの意見に子どもの言葉で返す。「そうやなあ」「あかんで」
- 子どもとまったく同じように遊ぶ。



### (ケースその2)

- 指示を多く出し、考えさせることをあまりしない。
- 命令調で、子ども目線ではなく、上から威圧的に話をする。
- 禁止事項が多い。躰と称して、管理教育をする。
- 問題が起これば、理由も話さず、頭ごなしに怒る。
- 全体が、同じ行動をとることを好む。



## ○高学年の場合

子どもは、授業で、先生を見ている。「ああ、そうだったのか」「なるほど」「わかった」などの感想を持つことができる授業を構築することが大切である。そうすれば、子どもは、自然に先生を「尊敬」する。尊敬できる先生なら、いくら子どもに近づいても子どもは、自分との距離を適切に保つことができる。また、高学年においては、子どもとの距離を離しすぎると、子どもとの意思の疎通ができなくなり、いろいろな問題が、起こってくる。

### (ケースその3)

- ・「わかりきった内容の授業」「作業的な授業」「おもしろくない授業」などをする。
- ・命令調で、子ども目線ではなく、上から威圧的に話をする。
- ・禁止事項が多い。躰と称して、管理教育をする。
- ・全体が、同じ行動をとることを好む。

子どもが先生を馬鹿にする。

先生の指示が通らなくなり、言うことを聞かなくなる。

崩壊につながる。

※このようになったとき、教師が、子どもと話をしたり、遊んだりして、子どもに近づかなければいけないと思い、そういう行動をとるのは、逆効果になる場合がある。

## こんなことが起こったらどうするか。

### 1. 言葉遣い

- ・教師の教養と品のある言葉遣いで、子どもと先生の言語環境を整える。

### 2. 子どもとのいい人間関係

- ・躰と称して、管理教育をしない。子どもの人格を認めていく。

### 3. いい授業

- ・授業内容を充実させ、授業で子どもが尊敬できるような先生になる。

### 4. 説得力

- ・問題行動を起こしたときは、問題をちゃんと理解させ、その上でどのように修復するかを考えさせ、どうするかという結論を自分で決めさせる。

先生とそれぞれの子どもとの適切な距離を保とう。

いつも同じ距離ではない。  
TPOによって、異なる。

(参考)

- 言葉遣い
  1. 子どもの普段使っている言葉遣い
  2. 常体
  3. 敬体
  4. 指示・命令                   を使い分ける。
  
- 視線・目の高さ
  1. 子どもの目の高さより上から
  2. 子どもと同じ目の高さ
  3. 子どもの目の高さより下から                   を使い分ける。
  
- 指導机
  1. 子どもの席の前に置く。
  2. 教室の一番うしろに置く。
  3. 教室の出入り口のところに置く。
  
- 児童机
  1. 前向き2人1組
  2. 前向き個別
  3. 班(4~6人)
  4. コの字型

## まとめ

1. いい授業をして尊敬される先生になる。
2. 人権・生命に関わる問題は、厳しく指導する。  
それ以外は、子どもに結論を出させる。
3. 言葉遣いに気をつけ、言語環境を整え、子どもとの適切な距離を保つ。
4. まじめな子どもが、得をする学級を作る。
5. 子どもに本音をぶつける。
6. 子どもをほめるときは、本当のことでほめる。